

平成27年度事務事業評価シート						取組みコード	33122
区分	補助金・交付金		担当課	高齢介護課	作成日	平成27年5月15日	
事業名	シルバー人材センター運営費補助金		開始年度	平成19年度	予算科目	3.1.4.4.2	

1 事業の概要

総合計画での位置づけ			
部	第3部 健康でゆとりとふれあいのまちづくり	章	第3章 ゆとりと生きがいのある高齢者施策の推進
節	第1節 生きがいづくりと社会参加の促進	基本施策	2 高齢者雇用の促進
取組みの基本方向		(2)シルバー人材センターの活動を支援します。	
根拠法令等	高年齢者等の雇用の安定等に関する法律 公益社団法人愛川町シルバー人材センター補助金交付要綱		
目 的	健康で働く意欲を持つ高齢者の就労機会の拡充を図るため、補助金を交付し、公益社団法人愛川町シルバー人材センターの運営を支援する。		
(誰・何を対象に、何のために)			
内容・方法	高齢者への就労機会、生きがいの充実及び福祉の増進を提供しているシルバー人材センターが、円滑に事業を運営できるよう、人件費及びセンターの運営に直接必要と認める経費について補助対象とし、年2回分割して交付する。		
(何を行っているのか)			

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標		指標名		平成21年度	平成28年度		
		『生きがいづくりと社会参加の促進』について「満足」と感じる住民の割合		36.9%	42.0%		
		シルバー人材センター入会者数		210人	358人		
(A)総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果				高齢者の就労機会が拡大すること			
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度 (平成24年度)	平成25年度	平成26年度	平成27年度
就労延べ人数	増	各年度の就労延べ人数	計画値		25,000.0	27,000.0	28,000.0
			実績値	24,083.0	26,631.0	26,835.0	
			達成度※自動計算		106.5	99.4	0.0
(B)成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動		本事業は補助金の給付のみであるため、町の活動としては、申請書の受理、報告書の審査等だけであることから、活動指標の設定は行わない。					
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成25年度	平成26年度	平成27年度
			計画値				
			実績値				
			達成度※自動計算		計測不能	計測不能	計測不能

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

				(E) 平均人件費(円/年)	8,300,000
年 度		基準年度(決算) (平成24年度)	平成25年度(決算)	平成26年度(決算見込)	平成27年度(予算)
(A) 事業費(円)		7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000
(B) 概算職員数(人)		0.050	0.050	0.050	0.050
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算		415,000	415,000	415,000	415,000
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算		7,415,000	7,415,000	7,415,000	7,415,000
単位当たりコスト※自動計算		307.9	278.4	276.3	
財源内訳(円)	特定財源	国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源※自動計算		7,415,000	7,415,000	7,415,000

4 事業の項目別評価(分析)

項 目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である		B
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない		
	国や県において同類種の事業が実施されていない	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの変化がない	○	
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている	○	
	受益に応じた負担は適正である	○	
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である		
	町民の日常生活に必要不可欠な事業である	○	
上記のいずれにも当てはまらない			
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成26年度の目標を達成している	×	B
	基準年度と比較して成果が向上している	○	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用減、成果アップ	A
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	間接的	B
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		改善の余地がある	

5 特記事項

平成22年度より町補助金は700万円の同額補助となっている。

6 自己評価(担当課)

評価結果	● 現状維持	○ 拡 充	○ 改 善	○ 縮 小	○ 再 構 築	○ 廃 止
理由	健康で働く意欲のある高齢者の希望に応じた就業の機会を広げるため、組織的に就業の提供が出来る公益社団法人シルバー人材センターの運営の補助について継続していく。					
今後の方向性	会員の新規加入促進及び新しい就業の場の確保のため、広報等の周知を行う。また、シルバー人材センターの健全運営が図られるよう、事務局への助言や相談等の更なる連携を図る。					

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	● 現状維持	○ 拡充	○ 改善	○ 縮小	○ 再構築	○ 廃止
今後の方向性に係る意見等	所管課の方向性のとおり					

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	○ 現状維持	○ 拡充	○ 改善	○ 縮小	○ 再構築	○ 廃止
今後の方向性に係る意見等						

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

事務局へ情報提供等をしていき、更なる連携を図る。また、広報や町ホームページ等活用し、事務局と連携して周知することに努め、会員の加入促進や新しい就業の確保を図る。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	● 現状維持	○ 拡 充	○ 改 善	○ 縮 小	○ 再 構 築	○ 廃 止
理由・改善方針	所管課の方向性のとおり、シルバー人材センターと連携しながら周知啓発や会員の加入促進、就業機会の確保等を行いつつ事業を継続する。					